

GIGAスクール時代に 学校図書館ができること

南部町立会見小学校
学校司書 安田美穂子

第27回鳥取県図書館大会「ICTを活用した図書館のあり方～デジタル化によるメリットを学ぶ～」事例発表

本日の流れ

1. はじめに
2. 図書館のDX化
3. 情報活用能力育成のために
4. 学校司書のICTとの関わり方
5. おわりに

会見小学校について

児童数：164人 学級数：10(うち特別支援学級3)

図書館蔵書冊数：12680冊

令和3年度個人貸出冊数：21384冊

※1人当たり124.3冊(児童数170人)



会見小図書館の取り組み

①読書センターとして(読書推進)



【読書の記録】

- ・国語の教科書、「読書単元」に対応
- ・各学年に応じた記録内容

【100さつ名人】

- ・100冊借りるごとに「100さつ名人認定証」を発行

会見小図書館の取り組み

①読書センターとして(読書推進)

【各種イベント】

委員会、図書館主催



↓本の貸し出しパズル



← 新春おたのしみ福袋



↓ドキドキおみくじ



会見小図書館の取り組み

②学習センターとして(授業支援)

【計画類の整備】・全体計画、年間指導計画、重点単元計画

【活動掲示】・図書館が関わった授業や活動などを掲示



会見小図書館の取り組み

②学習センターとして(授業支援)



【司書教諭】

- ・計画類の整備
- ・担任との打ち合わせ
- ・調べ方の指導
- ・情報の扱い方の指導



【司書】

- ・資料の準備
- ・リスト、パスファインダーの作成
- ・Webサイトの紹介

会見小図書館の取り組み

②学習センターとして(授業支援)



授業での
成果物



単元への
導入



会見小図書館の取り組み

③情報センターとして(情報活用能力の育成)

【情報活用教育】

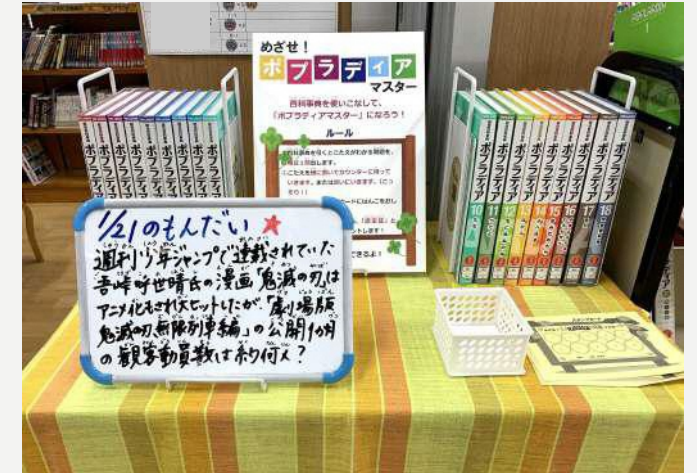
情報の集め方、使い方

- ・情報カードの活用

※町内で共通のものを使用

- ・普段から「調べて知る」

ことに親しむ



GIGAスクール時代に

GIGAスクール構想とは・・・

- 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する」
- これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

「GIGAスクール構想の実現へ」文部科学省リーフレット



ICTを活用していくことが前提

タブレットを文房具(道具)のように使う = ICTを使うことが目的ではない

学校図書館は・・・

対応できなければ取り残される ↔ 存在を示すチャンス！？

図書館のDX化

図書館と児童の持つ端末を繋げる

①カーリル「学校図書館支援プログラム」の活用

町内のネットワーク状況

学校図書館5館、町立図書館2館 ← システムで繋がっている

- ・蔵書検索がまとめてできる

利用者開放端末(OPAC)はない = 自分で検索はできない

- ・相互貸借依頼がシステム上から可能

児童の端末から蔵書検索ができるように = Web情報と本を同じ土俵に乗せたい

→ Web公開すれば可能 → 一般利用者からも学校の所蔵が見える

▲運用上の難しさ

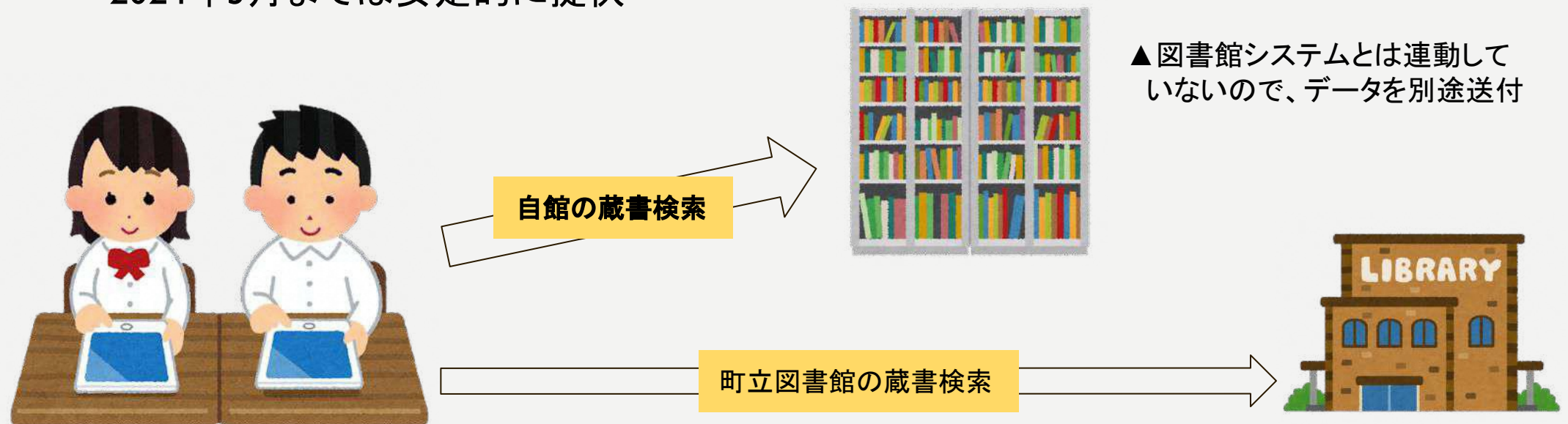
図書館のDX化

①カーリル「学校図書館支援プログラム」の活用

=COVID-19 学校向け蔵書検索蔵書検索サービス無償提供

<https://blog.calil.jp/2020/04/negima.html>

- ・蔵書データ → 児童・生徒がアクセスできる蔵書検索サイトを構築
- ・2024年3月までは安定的に提供



図書館のDX化

②電子書籍読み放題サービス「Yomokka!」トライアル導入

紙の本以外の可能性

<https://kodomottolab.poplar.co.jp/mottosokka/yomokka/>（ポプラ社提供のサービス）

町内小学校3校でトライアル導入（約7ヶ月間）

使い方指導（3-6年生）

- ・鳥取県立図書館横断検索
- ・カーリルブックウォーク
- ・書店のWebサイト

※1・2年生は家庭で使ってもらうように
案内文書、ID・パスワードを配布



図書館のDX化

②電子書籍読み放題サービス「Yomokka!」トライアル導入

導入の効果 → アンケート実施(2022.3)

読書をしている時間(朝読書の時だけ)

3年・・・20%

4年・・・42.4%

5年・・・38.9%

6年・・・50%

【5年生の回答に注目】

・1週間に1回以上使っている・・・77.8%

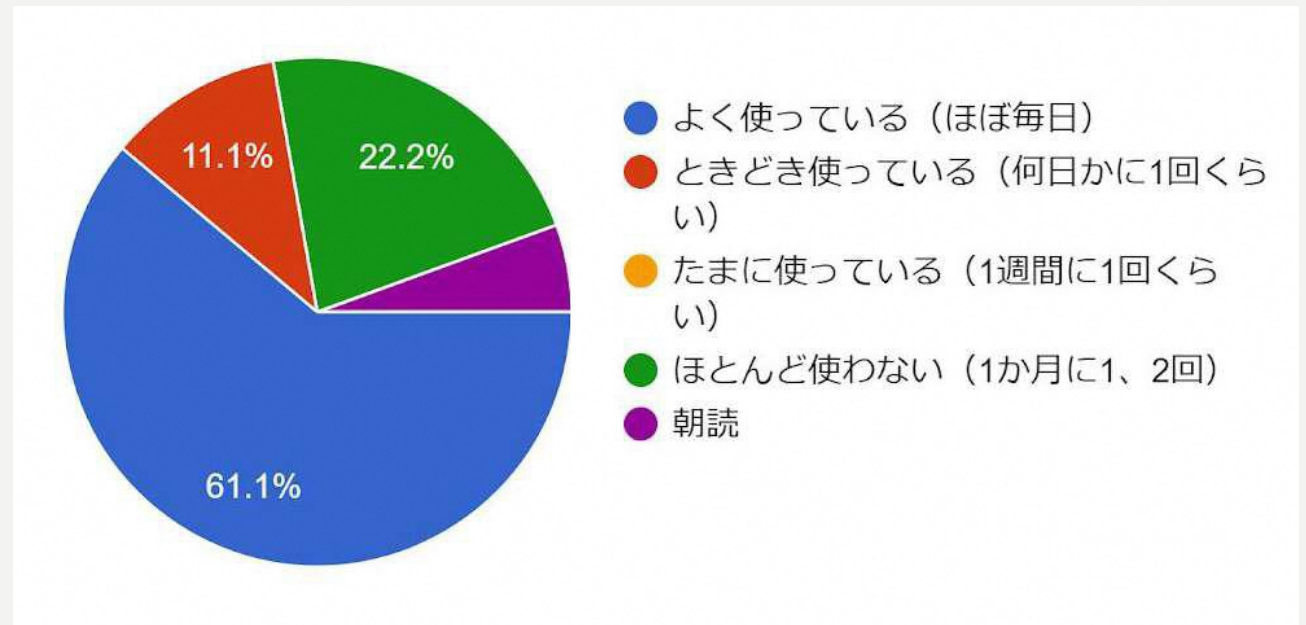
※ほぼ毎日使う・・・66.7%

・「読書がすきか？」という問いに、「どちらかというときらい」「すきかどうかわからない」

「好きでもないし嫌いでもない」と答えた児童のうち、数人の児童が「ほぼ毎日使っている」と回答

・Yomokka! の良かった点の一位回答は「読みたい本を探すことができる」(全ての学年)

・電子→紙の本の流れもある



図書館のDX化

③Google Workspace の活用

Googleのアプリケーション使っていますか？



ドキュメント ≒ Word
パスファインダー、リンク集



スプレッドシート ≒ Excel
アンケート集計



ジャムボード
思考ツール



フォーム
アンケート、本の予約、図書館クイズ



スライド ≒ パワーポイント
案内、説明



ドライブ
町内共有ドライブ



Classroom
情報発信、情報共有



Meet ≒ Zoom
連絡会、オンライン企画



Gmail
予約連絡

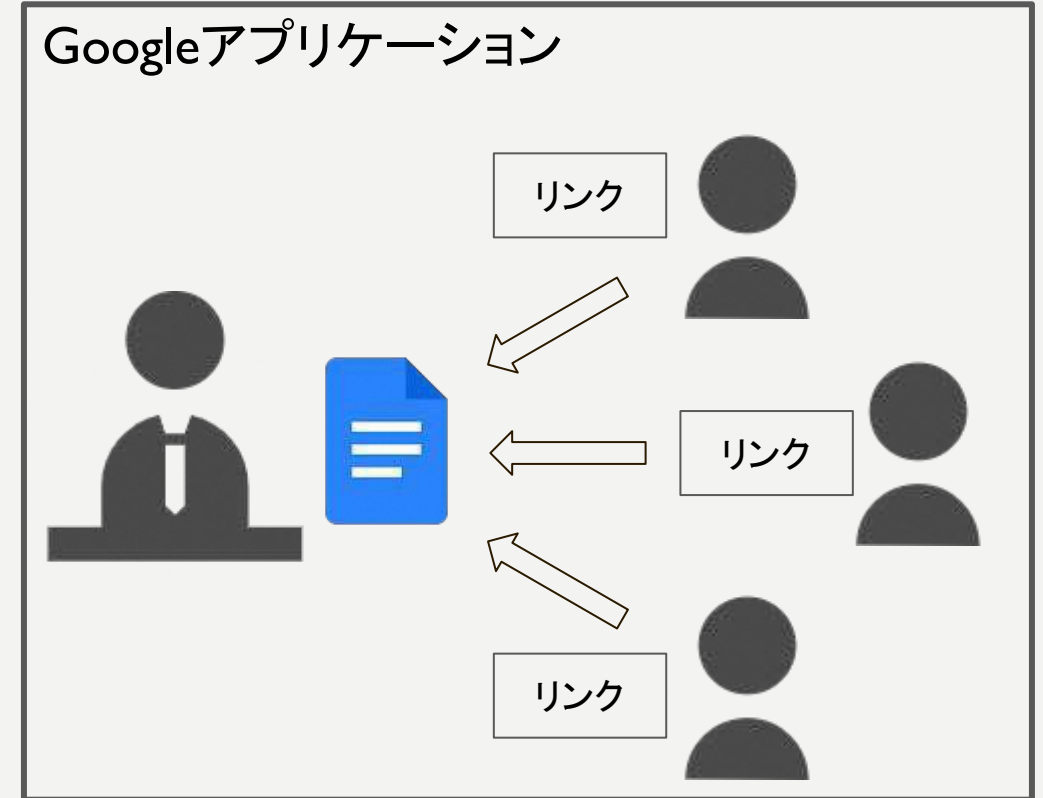
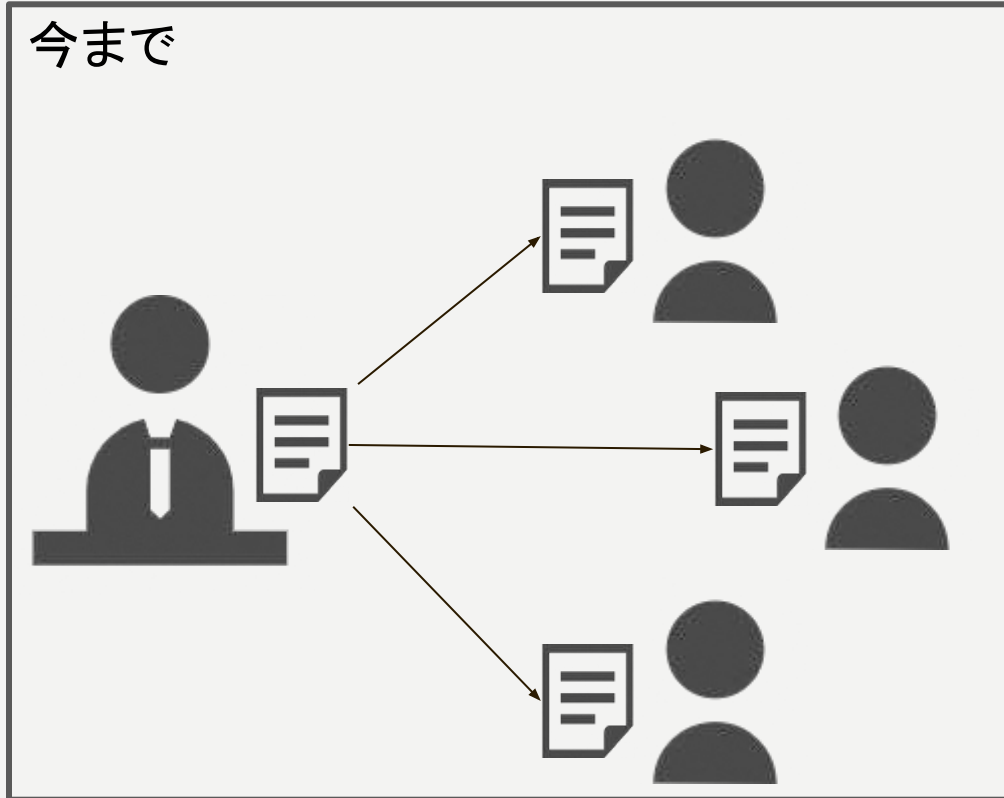


サイト
校内ポータルサイト

図書館のDX化

③Google Workspace の活用

最大の特徴 = 共有、共同作業(同時進行)



図書館のDX化

③Google Workspace の活用

図書館と児童を繋ぐ有効なツール

◎Classroomによる情報発信、情報共有 ← 校内全てのClassroomのメンバーに

図書館からのお知らせ

授業・単元に関わる情報提供

アンケート

◎Googleサイト

図書館ホームページ

図書館に関わる情報のポータルサイトに(校内限定公開)

○便利なところ・・・情報発信が容易、データの加除が容易、授業の進度の把握、プライバシーの保護

▲ちょっと不便・・・ルビが振れない

情報活用能力育成のために

①情報活用能力とは…

とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン(改訂版)策定の趣旨

平成29年・平成30年に告示された学習指導要領では、**情報活用能力※II**が言語能力や問題発見・解決能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」の一つとして位置付けられた。その中で、情報活用能力は、「世の中の様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である」と定義されたが、**とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン(改訂版)**(以下「ビジョン」という。)では、**学習指導要領の定義に加え、言語能力や問題発見・解決能力を含めたものを「情報活用能力」とする。**

「とっとり学校図書館活用推進ビジョン改訂」2022

「学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり、さらに、このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むものである」

読む・書く・聞く・話す
課題の設定
情報収集(見極め・吟味)
情報の整理・まとめ・発信

学び方の指導
(情報センター)

情報活用能力育成のために

②目指す児童の姿

これから正解がない問題に直面していく事になる

→ 自分なりの答えを見つけるために

情報を得るスキルを身につけた子ども

- ・問題発見
- ・情報の見極め・吟味
- ・情報の整理、まとめ、発信
- ・著作権等の知識



小中9年間で段階的に力をつけていく

本に限らず様々な媒体から



図書館は様々な媒体を
提供しなければならない

情報活用能力育成のために

③情報活用能力＋デジタルスキル・モラルの体系表

「学校図書館の機能を活用することで身につけたい情報活用能力系統表」

<https://www.library.pref.tottori.jp/support-center/post-40.html>

＋ 具体的なスキル、使うツール = 会見版

「学習指導要領に基づいた情報活用能力体系表」

(鳥取県教育委員会)

- ・具体的なスキル
- ・情報モラル

学習指導要領に基づいた情報活用能力体系表 (鳥取県教育委員会) R3.2版

分類	資質能力	めぐる力の育養	資質・能力の3つの柱で醸成した情報活用能力	情報活用能力ベーシック				小学校	
				課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現	振り返り改善	低学年
A	知識及び技術	実際の社会や生活の中で生きて働く力	①情報と情報技術を活用して問題の発見・解決の方法を身に付ける	○				○	見つけた不思議や疑問を解決するには順序があることが分かる → 問題解決や表現したいことの手順を簡単に図示する いろいろな方法で情報を集める → いろいろな方法で情報を集める 情報の収集の手段と範囲を増やして集める → 情報の収集の手段と範囲を増やして集める 集めた情報をいろいろな方法で分ける → 集めた情報を比較・関連付けしながら整理する 集めた情報から問題解決につながる情報を見つけ出す → 集めた情報から問題解決につながる情報を見つけ出す まとめた情報を伝えやすい方法を考える → 相手に伝わりやすいプレゼンテーションを作成する
			②情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響について理解する	○			○		問題を解決するためには情報の必要性が分かる → 目的に沿った情報活用の意思を立てる 情報活用の取り組みを振り返り、その良さが分かる → 情報活用を振り返り、改善点を提出す
B	態度・関心	自ら主体的に学び、探究する力	③情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響について理解する		○	○	○	○	身近な事象から感じた不思議や疑問に基づいて課題を発見したり、設定したりする → 日常の事象から思いついた疑問に基づいて課題を設定する 身近なところから情報を集める → 調査や資料から情報を収集する 集めた情報を比較・関連付け、情報の関係性を見出す → 集めた情報を比較・関連付け、情報の関係性を見出す 集めた情報を同じ情報と違う情報に分ける → 「考えるための技法」を活用しながら論理的にまとめる 写真や図、短い言葉を組み合わせで分かりやすくまとめる → 表やグラフを使って集めた情報をわかりやすくまとめる
			④情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響について理解する		○	○	○	○	

2つの表の中からスキルを抜き出し、まとめて記載した体系表

→ 会見スタンダード(児童が見てもわかるものも) = 情報教育と連携

学校司書とICTとの関わり方

①環境整備

日常的に活用するための環境が必要 ← 学校司書にも1人1台タブレットの実現を！

②学校司書のデジタルスキルアップ

鳥取県教育センター・・・放課後ワンポイントレッスン(動画)

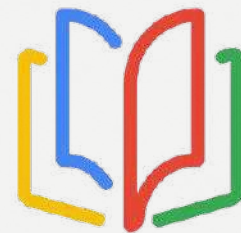
繋がりを持つ

→ GEG Tottori ※Google教育者グループ

<https://sites.google.com/view/geg-tottori/>

学校図書館Googleコミュニティ(SLGC)

様々な人とのネットワークを



Google Educator Groups
GEG Tottori | 鳥取



みんなで学ぼう！



おわりに

【課題】

- ・1人1台の重要性
各学年に応じたスキルの育成
- ・学校全体での取り組みに
全体研修(図書館活用も含めて)

【今後やってみたいこと】

- ・NIE × ICTの可能性
- ・副読本のデジタル化
- ・郷土資料のデジタル化(町立図書館と協力)



◆参考資料◆

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編」文部科学省

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_001.pdf 2022.7.20 確認

「GIGAスクール構想の実現へ」文部科学省

https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf 2022.7.20確認

「学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成」文部科学省

https://www.mext.go.jp/content/20201002-mxt_jogai01-100003163_1.pdf 2022.7.20 確認

「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン改訂」鳥取県教育委員会 2022.3

鳥取県立図書館>学校図書館支援センター <https://www.library.pref.tottori.jp/>

「とっとりICT活用ハンドブック 増補版」鳥取県教育委員会 2022

<https://www.pref.tottori.lg.jp/297526.htm>

『どう使う？学校図書館と1人1台端末 はじめの一步』

全国学校図書館協議会『どう使う？学校図書館と1人1台端末 はじめの一步』編集委員会:編著

(全国学校図書館協議会 2022.3)

ご静聴ありがとうございました！



本日のご縁を大切に・・・
何かありましたら、お気軽にご連絡ください！

安田 美穂子

yasuda.mh@g.torikyo.ed.jp